

巻頭言 「イエスの受難の当事者」

宇野 元

先週2月14日から受難節に入りました。イエス・キリストの受難の歩みを思い起こすとき、イエスが十字架につけられ、死なれたのをおぼえるときです。イエスはみずからの受難について三回告知しています。苦しみを受けて死に、復活しなければならぬと。受難と復活において、イエスの働き全体の意味が示されます。イエスの生涯には受難の影が伴っています。弟子たちははじめからそれを知っていたわけではありません。彼らは別のことを想像していました。イエスはみずからの受難を知らせるとともに、なにより大切なのは、ご自分がこの苦しみを引き受けることであると認識しておられました。受難節が数日の事柄でなく、46日間にわたるのはこのためであると言えるでしょう。伝統的なプロテスタント教会では、この期間の五つの日曜日に、それぞれ聖句が当てられています。今年のカレンダーによる各日曜日の聖句を記してみましょう。

- 2月18日「彼がわたしを呼ぶなら、わたしは彼に答える」(詩編91,15)。
- 2月25日「主よ、あなたの憐れみと慈しみを思い起こしてください」(詩編25,6)。
- 3月3日「私はいつも主に目を注いでいます」(詩編25,15)。
- 3月10日「エルサレムと共に喜びなさい」(イザヤ66,10)。
- 3月17日「神よ、私のために正義をもたらしてください」(詩編43,1)。

五つの日曜日において、私たちはイエスの道、すなわちエルサレムへの道を共にゆくよう招かれます。ペトロとアンデレ、ゼベダイの子ヤコブとヨハネ、マグダラのマリア、ベタニアのマルタとマリア、……彼らと共に。

「受難」は、「パッション」という言葉で表されます。「パッション」は、「情熱」を意味します。イエスは、旧約の預言者たちのように、情熱を傾けて神の義を示されました。と同時に、同じ情熱をもって神の愛を証しされました。このイエスのパッションは、まさに「受難」を意味しています。苦い盃、そして十字架を意味しています。

ひとりの人の苦難の体験から、慰めと平安が？ イエスの受難における、神のみわざは何か？ イエスの受難は、他ならぬ私に関わる——このことが神のみわざです。神はイエスの受難の出来事の中に私の名前を書き入れておられる。ペトロとアンデレ、ゼベダイの子ヤコブとヨハネ、マグダラのマリア、ベタニアのマルタとマリア、彼らと共に——このことを私が知ることが。